

# 日本語力不足 希望もてぬ

生野区・在日外国人の子ども

地域で暮らす在日外国人の子どもが抱える課題を探るうと、大阪市生野区のNPO「クロスベイス」が、「生野の『日本語指導が必要な』子ども白書」をまとめた。日本語能力の不足が原因でいじめや学習の遅れにつながり、子どもたちが希望を抱きにくい実態が判明。白書は、一層の日本語支援の必要性や母国・地域の言語や文化を学ぶ大切さを指摘している。

【鶴塚健】

## 現場から

生野区は住民の5分の1にあたる約2万600

0人の外国人が暮らす、外国人住民の比率は全国屈指。戦前から多く住む

在日コリアンが高齢化で減る一方、近年はアジアを中心とした「ニューカマー」の外国人が増加している。

白書の作成には、NPOのほか大学教員や学生が参加。地域の実態、教育行政の現状を調べるとともに、中国や台湾、ベトナム、フィリピン、ネバール出身の7人の子どもに聞き取りをした。来日の時期や経緯は多様

## NPO「白書」作成 支援の必要性指摘

だが、多くが日本語の能  
力不足がきっかけで交友  
関係や学習に支障が生  
じ、困難や生きづらさを  
感じていることがわかつた。今後の課題として  
は、継続的な日本語支援  
▽自身のルーツを表出で  
きる居場所の確保▽母國  
・地域の言語能力の保持  
と伸長——などを列挙し  
た。

5人の保護者にもイン  
タビューしたところ、多く  
が仕事や生活に追われ、日本語を体系的に学  
ぶ機会がなく、日本語能  
力が不十分だった。この  
ため、子どもの学習状況  
や日本の教育システムへの  
理解が不足していた。

「心の壁」次に  
つなげないで

補うため、行政手続きや  
通院の際に子どもが通訳  
として手助けしている実  
態もわかった。  
クロスベイス理事の朴基浩さん(35)は「浮かび  
基浩さん(35)は「浮かび  
上がった課題をふまえ、  
マイノリティーの子ども  
たちを支援してあげる  
社会の側が変わるという  
という姿勢ではなく、日本語能  
力が不十分だった。この  
姿勢が大事だ」と話して  
いる。

月26日に開かれた報告会  
では、東京都福生市を拠  
点に活動する「YSCグ  
ローバル・スクール」の  
田中宝紀さんが講演し、  
ローバル・スクールの  
教育支援や就労支援の取  
り組みを紹介した。「言  
葉の壁」に加え、一人一  
人が持つ「心の壁」が問  
題だと指摘。外国语ルーツ  
の子どもが生きやすい社  
会に向か、「心の壁を次  
の世代につなげないこと  
が大事だ」と語った。白  
書の問い合わせはクロス  
ベイス(06・6741・  
1123)。

白書発表に合わせ、6

月26日に開かれた報告会  
では、東京都福生市を拠  
点に活動する「YSCグ  
ローバル・スクール」の  
教育支援や就労支援の取  
り組みを紹介した。「言  
葉の壁」に加え、一人一  
人が持つ「心の壁」が問  
題だと指摘。外国语ルーツ  
の子どもが生きやすい社  
会に向か、「心の壁を次  
の世代につなげないこと  
が大事だ」と語った。白  
書の問い合わせはクロス  
ベイス(06・6741・  
1123)。



NPOがまとめた「子ども白書」